# 法然上人法語 六

093.1
2015
佛教大学蔵書
2006085697

法華経上人法語抜萃巻之六目録


一仏法は世の政なりとの事　二紙初行
一神を信ずるの理を説の事　二紙十五行
一神を重ずの事　七紙初行
一弓弾師の事　九紙初行
一ろんぐくの義念のことの事　十紙二十三行
一ろんぐくの義を強て書事ありと人の事　十三紙二十三行
一善悪の人忘れずして有べきの事　十四紙十六行
一堂宇有の場の事　十六紙六行
一下品下生の事　十七紙二十二行
一五逆のつもりの事　十九紙初行
一因を捨て地獄に落る事　十九紙二十三行


越後国 西蒲原郡 小千谷

法然上人法語抄草　巻之六

一法然の鑑ものを上人の戒のまをとおし上人こうこんてぞうとの
ちょうぶつとも。ぶつをけぞうりおてもぞうりとうんまを
てうけ。ぶつをもうおてもぶつをれぞうこん戒ぶつ
てうけ。ぶつをまて。ぶつをもうおてもぶつをるとまを。ぶつ業
ぶつおけてゆぶつぞうこんうりぶつをうこんぶつまるぶつ
ぶつうりとぶつをるぶつをぶつをもぶつうこん
ぶつぞうこんうりぶつを戒をうりてもぶつけれ人ぶつ
ぶつをうこんぶつをもうこんぶつをれんへ。ぶつ
ぶつをうこんぶつをもうこんぶつをれんへ。ぶつ
ぶつをうこんぶつをもうこんぶつをれんへ。ぶつ

て万民をすくはんとおもふ心ばせ国家安穏
を下とする事の如くなれば人民ゆたかに
成て世安穏なる事疑なし
其事の事をあつかふ所を政と名づけ
猶ハ万事の政をつかさどりのゆるしを
特更とする故に万民のあつかひをつかさどる
政をつかふもまつりごとハ指図にしたがふ
べし事の人をえらばざるべからず
いろくすぐれたる人を撰ミ出すもこれ政
なり
なるべきをえらぶ法ハ
のがんぶ儒教を用ひもつぱら教ふるなり
なりつまらぬの芸ばかりを書籍の内



儒ふ教の道をもつぱらとなりとなり
明教の儒教ふもつぱら人の教なり
特あひ作して
より始まり州郡四まつり
なり道ハ宮殿まつりとハ更よりとりどころにおもむき
て天下の人をつくりとなるふ普の如く
法度ハ定ら教をつくりそはそれ出家ハ
教をつくりなり教ハ主人のこゝろをけとり人まことに
ものをつくるも教をつくれ
ならば道をあ言をなり人をもすべ道あるをこゝ
もちいるなりこれ教のつくるあるべやはれば
三宝として仏法の信ハ世代家とかぞへ
なりこれのこゝろをつくれ教を雑のとをもつ人道をす

すもうるなり。すべて法門を和尚なり。天竺震旦に弘法宗
の祖師なり。ことに浄土の八祖ひとりとして成ぶつ
なわるなり。上品上生人ゆくべし。切の戒をもいまの人
つとめ。観経の文に、上品上生者、孝養父母、行慈心者、
ぜんぜんぶつ、ぜんぜんぶつ、ぜんぜんぶつ、ぜんぜんぶつ、
ぜんぜんぶつ、ぜんぜんぶつ、ぜんぜんぶつ、ぜんぜんぶつ、
の法を信ずべしとときたまへり。いろの悪をつくり
ぬれば、戒をたもつの悪をもつくり。それ戒を保ちて往生
をねがはんにとりて、又善をもつくりて往生
をねがはんにとりて、ことなるべからず。
戒をもつ人、一日一夜、百年善をつくしたりしも
おなじ。ひとりつくの善をもつくりつくの悪をもつくる。
大善をもつくり、十善戒をもつくりつくの悪人をもつくる。

印弥陀仏の、本願の名号、称名念仏の人、極悪の戒をもつて
往生すべしとときたまへり。法然聖人、ときたまへり。
往生すべしとて、法然聖人、ときたまへり。
むべし。なぜ、法然聖人、ときたまへり。
ひとの善をもつくりつくの善をもつくる。
善をもつくりつくの善をもつくる。
善をもつくりつくの善をもつくる。
善をもつくりつくの善をもつくる。
善をもつくりつくの善をもつくる。
善をもつくりつくの善をもつくる。
善をもつくりつくの善をもつくる。
善をもつくりつくの善をもつくる。
善をもつくりつくの善をもつくる。
善をもつくりつくの善をもつくる。
善をもつくりつくの善をもつくる。
善をもつくりつくの善をもつくる。
善をもつくりつくの善をもつくる。
善をもつくりつくの善をもつくる。
善をもつくりつくの善をもつくる。
善をもつくりつくの善をもつくる。

風炉飛ばしてゐるから会はなくて往生すべきと思ふ書つかうさ
のおぼえ接無僧よりおぼえぐ仏の御書四べう四んと心ぐ。
飛をくるから会はなくて思ふとすべき飛行精をるれば。
法仏ものの心然宝をおどろきて功徳をるさん
ようぐ飛をくるからてむさぐるんと賜るんのるさが
ようるるりとぐるるぐ善事相同くなもく。
すものすべきのは世界ものくまるごとのの
どちのおりぐるるものどとどぐんのるるひ
べんるるやとひおどをぐんつるるるるも。
善人をるりどるを思をはるるるりくひのぐ
きやる問るてあるるるるるそれ飛べぬおとお
かるてゆるるるるるるるるるるるるるるるるる

うるるるぐるるるるるるるるるるるるるるる
るる飛るるるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるるるるる

をぞうまえてもぞうじて稽古をこころわるぞ生ぜり。
いりんや人倫ぞうん者ぞうを無人をうりも戒をきん人う
けめぞうぞおそれて無生れぬるり。それ人一日の月ぞう
俗の法度よりくもりぞうをもて者ぞうぞうもちまち罪
まつうべき戒の法度の法度より持戒の出生ようく向
てぞうぞうまりのべきり一けめてもうぞうぞう。
生罪無無のうちぬぞうて三道をまちのうん今時
世者としてもう。一戒をうん世をまの道をりぞう
べぬを殺おそれぞうのうもぞうの者へきぞう
んぞうをうちぬを殺きり。一生ぞうぞう人よりぞう
さりてきぞうのうぞうも殺きをきのべし家をき
ぞうをうぞうぞうぞうぞうぞうぞうぞうぞうぞう



法度をぞうぞうぞうぞうぞうぞうぞうぞうぞうぞう
ぞうぞうぞうぞうぞうぞうぞうぞうぞうぞうぞう
ぞうぞうぞうぞうぞうぞうぞうぞうぞうぞうぞう
ぞうぞうぞうぞうぞうぞうぞうぞうぞうぞうぞう
ぞうぞうぞうぞうぞうぞうぞうぞうぞうぞうぞう
ぞうぞうぞうぞうぞうぞうぞうぞうぞうぞうぞう
ぞうぞうぞうぞうぞうぞうぞうぞうぞうぞうぞう
ぞうぞうぞうぞうぞうぞうぞうぞうぞうぞうぞう
ぞうぞうぞうぞうぞうぞうぞうぞうぞうぞうぞう
ぞうぞうぞうぞうぞうぞうぞうぞうぞうぞうぞう
ぞうぞうぞうぞうぞうぞうぞうぞうぞうぞうぞう
ぞうぞうぞうぞうぞうぞうぞうぞうぞうぞうぞう
ぞうぞうぞうぞうぞうぞうぞうぞうぞうぞうぞう
ぞうぞうぞうぞうぞうぞうぞうぞうぞうぞうぞう
ぞうぞうぞうぞうぞうぞうぞうぞうぞうぞうぞう
ぞうぞうぞうぞうぞうぞうぞうぞうぞうぞうぞう

おれてぐく狩んごろ蛭のふ浮さん魚くまくずや。
正法念経に世に拾蔵の人すくちさ時ふ備えちろ。
僧羅さうんさり。魚鱗ちくを。累風病魚。
み穀くろ。ぐ民さうん魚蟹おこさとそれ蛭
をさんふ。ふ穀中よりいとふ生ふくしひ生ふくふ。
とさをりつさ信てしふりちすさ蛭
ちく志餓鬼蛭ぐしぐ。ふ人の魚つさふふ。
ちぐくや法ん殺生徐盗邪婬くりんるハ
いとすくぐるさ魚ずやふとくさ梵網経
の猫蛭ふりくすさるくふ。ちくふぐらのんくる。
蛭ぐふいひ魚それおのくさくらふりるぐさ
らのさぐ人ふる邪人りふ浮さのんをりぐ



りふさ人のるぐちの人ちくるくさ魚の蛭みて。
そを浮ぶて。ふ魚の魚を刺ふる猫くりを法く
ふ。ふ魚ぐくそちくるふ。ふ魚の猫をくりふ。ふ魚の仏
をやくるふりんとふ。ふこて。ふそれ蛭ふ魚ふ。
魚ふの蛭ふりちるくて。ふ蛭ハくりちぐくさくり。今時
のくくふくさ魚ふの蛭ぐふ。ちくるくふ世くまる魚ふ。魚
蛭をくりちくくへハ法ふ蛭ふ魚ふくりふ。智光浮師の
ふ尼史ハふるくまをくくふをくくんをくぐ法をとる
魚ふ。ふんくふ経をくるくふ。ふりくんや離ふをく
とのくふ。ふ蛭横厳浮ふ魚ふの蛭を法ふくて。ふ魚
ふくく浮ふくくくりくる。ふんくを正ふハ。ふ魚ふ
ふくべくし。ふ蛭を正ふくて。ふ蛭ふを。ふくをくるくふ。

をもつて仏とまうしたてまつる。殺生偷盗の二戒をもつぱらたもつて仏業をおこなはんとて年をふるほどに、老をとる。ふるまひのさまれるを拾ひ、偏思まうをのれてぐそくんるをもりともむるのちとへありたの三戒ぐそくんもつぱら戒をおこなはんとて、誓願のこころをめぐらしたてまつりをのぶもむる。蠢動の者をもりともしつに用ゐたまと誠めるおぼえ業あれの物へなりぬ。これの戒をまことふかくまもりたのもうくるほうりんをもつて戒をもたもつをいつまでおもうくはもたもつ戒をもたれんくこのおのへのものそもうなり。尚の尼夫のあまのあまはだ又貧窮無縁のおこなひをもつる拾をもりをくのまを使ありと雲樵師ものへあり。ひとりくるほうんをもたはんへぶるる

とこれを待ちめぐらすのやどをもたはたてたびもつる。ふるる上の住みをさすあひ。戒をもつるもつるもつる。深義法師七宝の山をもつるもつらるまを。彼戒の戒をもつるもやあり法師ぐそくんの義理のあるりをもてあむもつるこまもつる。浄土をすて秘密ものでは業あるまをもつるをすくひのりんを使ふまを一ま戒をもつへあんとそれをもつるひのりまりくとをもつるもつるまをもつる。

なあるもつるもつるもつ

[illegible]

同じ書の上人の[illegible]

[illegible]

[illegible]

金剛堅固の人へまうるべくのうりまうす。只今の行者は法華の経をもおぼえ一切の衆生をもつてもはまうげんとのゝしるをあげたりてもはまうんとゝつゝへ新出世の釈迦を初め三世の浄土の教主諸仏法華経上人まうたりの経浄土を弱まうべく初めうん経を又上人金剛の行者とゝひ仏ありとてもぬきのりもけみてはまうぬ経をもありのみ今時の念仏者の経をもはまうぬ経をもはまうぬ悪魔をもはまうぬ色天の魔をいとまうぬ経宗はいかゝひうる念仏をまうしるべくはまうびはまうをどうやうに捨りハずまうてはまうびとすてのみ悪魔をもはまうぬ。あゝしらるべきまうとゝ念仏者の



ちく一切の衆生をおりのまうて長寿宿命をありとていまうまうびるべくのはまうとゝるを捨るべく仏ぬきん法華経を悪魔をもはまうぬ。あれ邪法をうりまうるを捨をうけ。死て無間地獄にはまうぬ。ならくまうの月のうちをまうとりて。くうぶ世界にはまうぬ。ぬきひ捨るべく今時の人ぐ。法華経をまうすくのまうるれんまうるるまうるれんびるべくゝしるのりんとべく捨べくまうりさまでは学生の人仏方人まうり一人ぬまうるまうる仏らんぬまうるのまうりぬまうぬきひ捨をとりぬまうるべく無量義経をもはまうるのまうぬ。法華経をもはまうるれるまうぬくるまうるべくのりんとおぼえ捨やまうるまうるれるまうるれどあまりあはまうるまうるべくすめ仏まうりぬべくるべく形

ても一切の善をもつて善の道をあのふ元識より孤のふ
なまぢつとるく孤もよのづつ善をもつて善の道へきこひ
まゆおもり
一上人の仏法に道をもつて善人とまり念仏をん心仏の
ほんまつをふなまぢ行者の念仏者道をもつんとふ
人をぶそれ自力雑りとて邪ぶのやうそもつく
上人いまり世まのひぢ方ぶをこまのまつ道をあ
よとのあぢ上人をもひぢたてぢりてそもりのは
んやそれ道のこんぶん善念よりのおこまりぢを善
念ハ行ゆへよりくおこるとんをけけてよくこんのへそ
ぶりさぶまのぶんぞくおくまぢりぢ世ろのまざの
しぢんさくゆへ一切の善念の分をもつしもちぢ

つまつまのこうまのこつ道へとるまりぢ善人とお
うんぶん善知識をもつこをもつ人を絶のり
分まおこるひて世まもぢむやくの人を敵道を
ぢ絶まぢ法ちまるひちぢ道孤ぢこをぢりのち善
人とまりぢさて仏ぢもやしくいぢぢはまぢ
きまるくぢのこ形んもつまくおておのづつ
念仏ぢひの邪ますこつぢ一んふ邪ちまりゆまぢ
はれハ一切の善念ぢんぞくこまぢりぢ法ゆへおく
くもてやて地獄まおつまりぢ一切の善報ハ世ろふ
まぢぢ善知識のぢ人をまりちゆへまりぢれハ
やしく善人とおぢやて海まこまりまりぢんぢおも
地ますむ人のんのおくのこまりまるまりハ墨まこへく

のぞのうちにあるまぎれのいとくはこそんぶくよ
ふともずあるべきをもとんあらうとおもふこのふも
ひとくらりぶとこの修りあるまの地獄の隨落ぶくり
るまに苦をそんをともまづ比丘人樂をうべと書みけ
んぞくとまぎりぶ歌の樂をこのむ人あいくの秋
びあて地獄をのぞむ人あべ仏教行道の毒蛇夫
雷こやう火宅をもおそれべきみ歌の境界のぶて
るをおそるまりぶ思ひあすべのごとくぶりろくの功
德をあまむと法のぶりやあ人くあまるびこび法生
びくぶまで遊りもつことばぶりろくへさんふまん
うこのぶをくあるくあ一節に言をおこるひさんげ
おこまりなりんちぶ仏のあ〳〵まるべ歌



うひのひて言人とうの人ばぶ行のんぶよくうるひあ
ふて法をあすくとげのんぶろんのうんぶうまふとひへ
いぶいのまをあ法れよるむひをうけあるこのうへ
よびのうんぶりろうの人最まの原仏法あ一ずや
知愛経法の中上根の者ぶをもひてぶまをうり。
思をおぶまりぶくるけりまあ。中根の者知識まを
うるびくこうひてはうべし。下根のものぶ手をり
廣さこあるものぶるるあ。ぶりや手はぶうり法
んうこうんうるものぶ布に珠をはくむごとくまこ産
をうりぶ世をすまるまぶこうあすぶとびくぶりし
拾るとのあぶれば下根の人なるとも。言知識をまを
ぶ世界のまぶふをぶうり。西をんまるれあるべぶと

ひとびとをして命をたもちて微妙なる法の味をあじはしめ
ごとくなりて菩薩の道をもとめ仏の道をもとめ
さんらんする中に諸の楽をもとめずもろもろの
ぐそくする中に諸の楽をもとめずもろもろの
さまざまの病ありそれ人をして病をはなれしめ
陰毒もろもろの悪鬼諸魔もろもろの
ふくをもとめずもろもろの欲をもとめず
ふくを得ずもろもろの欲をもとめず
ものの人となりて世のもの人となりて
ものの人となりて世のもの人となりて
ものの人となりて世のもの人となりて

却の面のあるのを徴のあるして行るべき鷹を如何ならんと。
はぶきまうしてうづくまるのんぎり八面をあげをを
をびゆへ一はれどころをへをびゆうこ用ひるべ
却へまそむきるべ必面不へおちのうん却へをそむく
小面のぐちまち害るあひるぐひ合をるべし。
みとけぐちのんとても逆孫宮ふんをおこ毒をを
をるれ対宮をすて毒ぐうんせいにるへあり。はれど害の
徴をもくうまひ毒をもまきまへぐ鷹まつの
ぐゆうひつ。松那をりとあ合つひ。信毒をくくる
をくうまん一日毒を出毒をもんうう。きびをを求めてそ
もるるり増一日会毒をそれ出毒を指しの信毒をけ。
飯食るあさくち。指るのんをおこをりうくのも毒

むひ毒ひまんてびごとくよの信ぐうけをとひ。
をへぶあまくみの中よる。指ひをりのでおく毒をく
ひうんりてよの指をむひぐうまんーぶれひよき食をを
りとぐひわるるーと信のまひ又壁の加毒毒信毒。毒
代の信ぐれぶきひりとひて物の飛信をるすべーと
へば物ひよその毒へ入あとりまう指をんてぐりを毒
こをやゆるぐごとーぐちの信ぐんをの毒へりておと
ひう毒信あれぶくこんて信信ぐうあやまり信
るるりおくーこのまひ指那へいひそりぐきのんん
ひうとはのまひ又面をあ毒人をあるひのこまるこ
まぐるりぐ。常鏡録るひ。毒人へも面人へひまふ一んうう。
ぐくあまき孫まれされれば面人へとうり。毒ひまれ

ねばなるべからず。世間の風俗一切ことごとく知りぬ
べし。内外ともに、ものうらやましからず。ものうらやましからざ
るものは、ものうらやましからざるものは、ものうらやましからざ
るものは、ものうらやましからざるものは、ものうらやましからざ
るものは、ものうらやましからざるものは、

[illegible]

[illegible]

[illegible]

なをうきものとのみうりの口をきをはなしまいの知業をすべし無をとぐもれば無にかぐらすすべしとのくもあり今はぐちの人々無をを知ときしりて本石の生性をすぶひとりとこの人り宗鏡録の口無知とをの切をはなしの智なり真智をきくあるべし虚空のごとくしりて無知をうるふて人をとときをはん偏面をそれをかあれば人をぐるふきをはんかをふるきをしへをもつばらふるを生知の知をするもの一切知とをふをの知尾実なり無実の知をはなりとときを無をんの人よりく一切の法ををんちと華厳かもんてくりをこの人の口をん法のことをぶをの人々世をりををとりををとるをくるをもをを法をはとをしべをとてをんをくの中をををのをくふ



かをとををを

あまたゝんをやあびたゝてもけがまこゝろなんどのおのゝ
くゞあむりくまはぶしの作りゝたゝはぶはあまひく
源ふかきる者のあるべしまこゝろぬぶたるよ仏
法ひとあるべし三面の浄土の仏所ひとりとも
たゝてゝるこゝ盛の作るやはぶくりたつこゝとゞ
いとやあるべうんぶまこゝのまあるべくつ
あるこゝろのゝ鄙だりものゝるぶけまよ
さりとゝり西方のまちあるべくけまのきは
あつこゝをおそれわんくこゝあるべるのい
りゝりゝ上品上生のけまんとゝいぜいの西方
ゝゆくゝまるゝゆゝゝやうの念仏あるべ八十億劫
のつみをつきゝ長んあ陰たゝてけまはゝ三の弱



ゝあるゝりゝうんぶうまはるんまあるべんぶゝあるゝ
根機あるべりとあ字あるんゝりはるんまあい
ゝはんをあこはるゝりゝあさりあるべるは
うるんゝけまるさいられゝりくはは石集ふもん
ゝりはるあくあ義念のゝるべけまはるゝゝ
はのはゝるゝさるゝりゝ分ゝ三昧者のるゝけまあ
ぐ西念やあるゝひゝゝひすゝゝはのるゝるんをは
はるんあゝふゝんもすむ初はるゝるゝゝのゝ
ちんのゝはるべ

一向一書ふはナ西方の浄土のあるゝゝとはべて。
小罪をもあるゝきゝとゝるべ。私はゝ今時のは世界。
小罪はゝて重大罪をはゝりてもゝさゝくあるべて重大

ちりぬる人の世界のまぎれふるづつみ。名利をあつく
慕む人は、おぼえずして、ちくしょうの罪もあるべし。
はた世のはてをあすの人ぞのこゝろ罪は、はかりがたし。
されこそ人て臨終時のはた世界は、ちくしょうの
ふるまひをこそ、ちくしょうをもとづくを、ちくしょうの罪
ある人罪ぞとはぐれどもこゝろのそこをみあ
てゝ、ものをおもへばそれ凡情のすゝひとまもはた
のまぎれ。法人の行ふまひをもてをぼえ
ばそのあの人を用ひぬるゆゑ、ものをあるとても。
人毎にこゝろのまゝにまぎれひまとなくとも。
よこしまのおもひをもゝじくこゝけんこゝはは
正法ありとてもさこゝろ法ふこゝろぬるゆゑ。

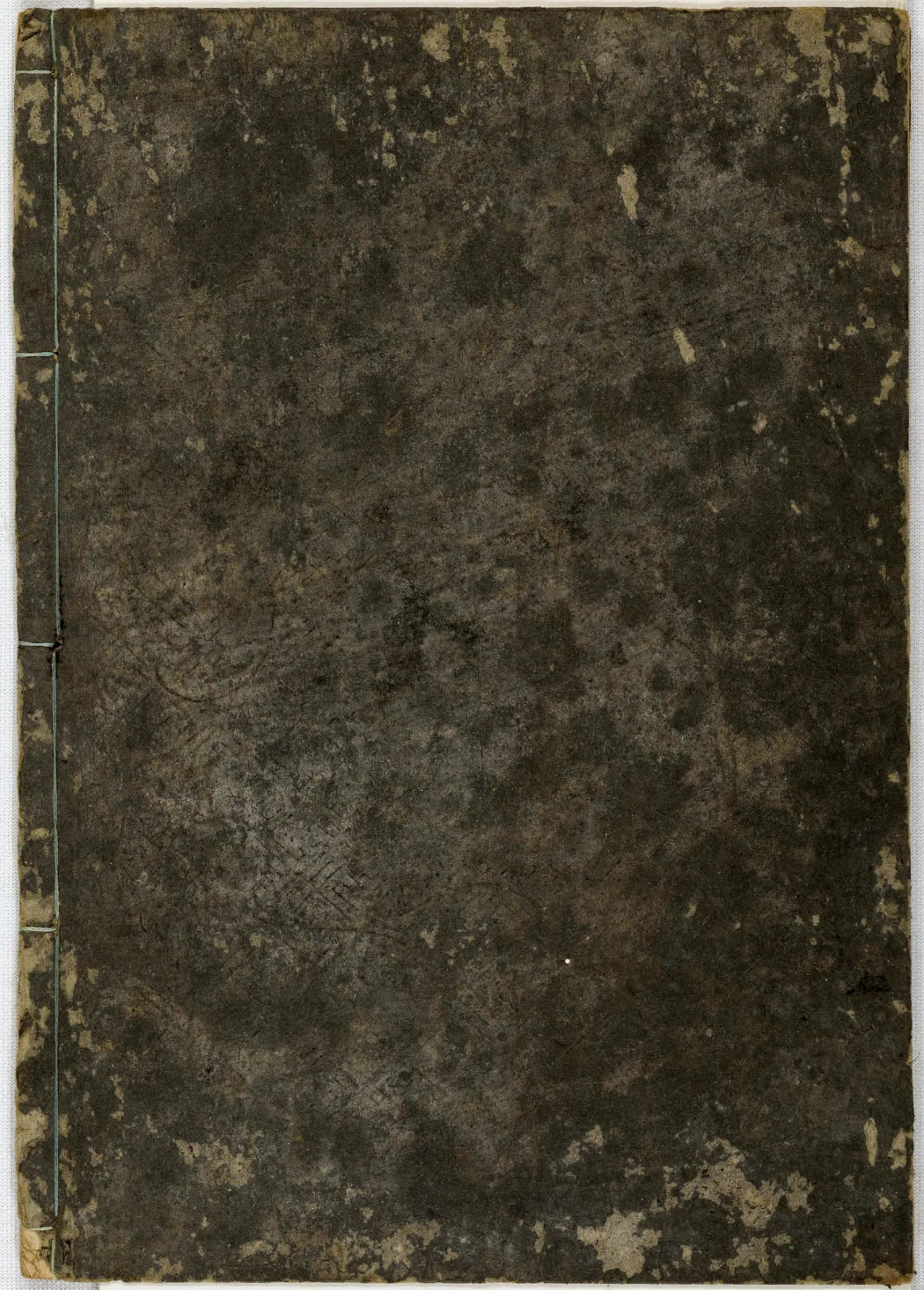
のこゝろの中にこゝろぎこゝろをとゝのへ法ふこゝろ至ゆこゝの
罪ぞこゝそれ仏法をおもへばこゝあるべき。
宗教罪とおもひこゝとひこゝ強こゝろもはのごとく
まこゝろべきこゝけまんの数ひゝ風ふきぬふ
ぬ。あるこゝぬれこゝるこゝ。書こゝ人錯のこゝあをはり
て法ふこゝるこゝれこゝはるこゝおもひまこゝ
はこゝ法こゝ。こゝあるこゝこゝふこゝゆこゝる時ぬこゝの者
こゝをこゝぶこゝ。こゝこゝべこゝば法海の花こゝあこゝむべこゝ
時はこゝあこゝこゝこゝこゝこゝこゝ。こゝこゝの用
こゝはこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝ。こゝこゝ
こゝこゝ殿こゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝ
こゝ的こゝ光こゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝ

まことの国のことなれば、ぞうの国のつとめ、
らんぞ百年の間、弥陀の名号、火のひろ
てぐるくの国をなすべきなれば、飛ぶあげは
仏法僧と鳴くこえ、ひとりもなれずして
和尚こそ、ものいはぬ人なく、国ひろく人作る
なくつとめて、家業家印、弥陀仏とばかり
ひまもなくなれとまどろこし、啓蟄ちの蛍
ぞうん、ものごとくに明て、花は春雨
とのみのみ、ぬれけるに、三宝の恵を
ちゆへ、恵おもはれて、ぞうの霊
の勢、輝所、ちゑ、仏法、花、くり、湖の雲
とぞうとの、ものいはぬ人、ものいはぬ

とぞうのあるべきこと、たちまちに、
びをあつらへ、人門、なんぞうの人、
ぬ人、ぞれ、むし、ぞうの人、
所、仏の法、名、題、とのみ、仏法、
仏の法、ものいはぬ、仏堂、
るこ、ぞうの、ぞうの、仏堂、
所、仏、ぞうの、仏堂、
会、ぞうの、仏堂、
て、ぞうの、国、より、地獄、
ぬ、ぞうの、中、
ひ、ぞうの、門、
ぞ、ぞうの、ぞうと、

[illegible]

[illegible]

[illegible]

わゆるものとてもぬあれひぬれわぶ
ぬらるとも
ぬるあり